

Iwatani

**2022年3月期
中間決算説明会**

2021年11月16日

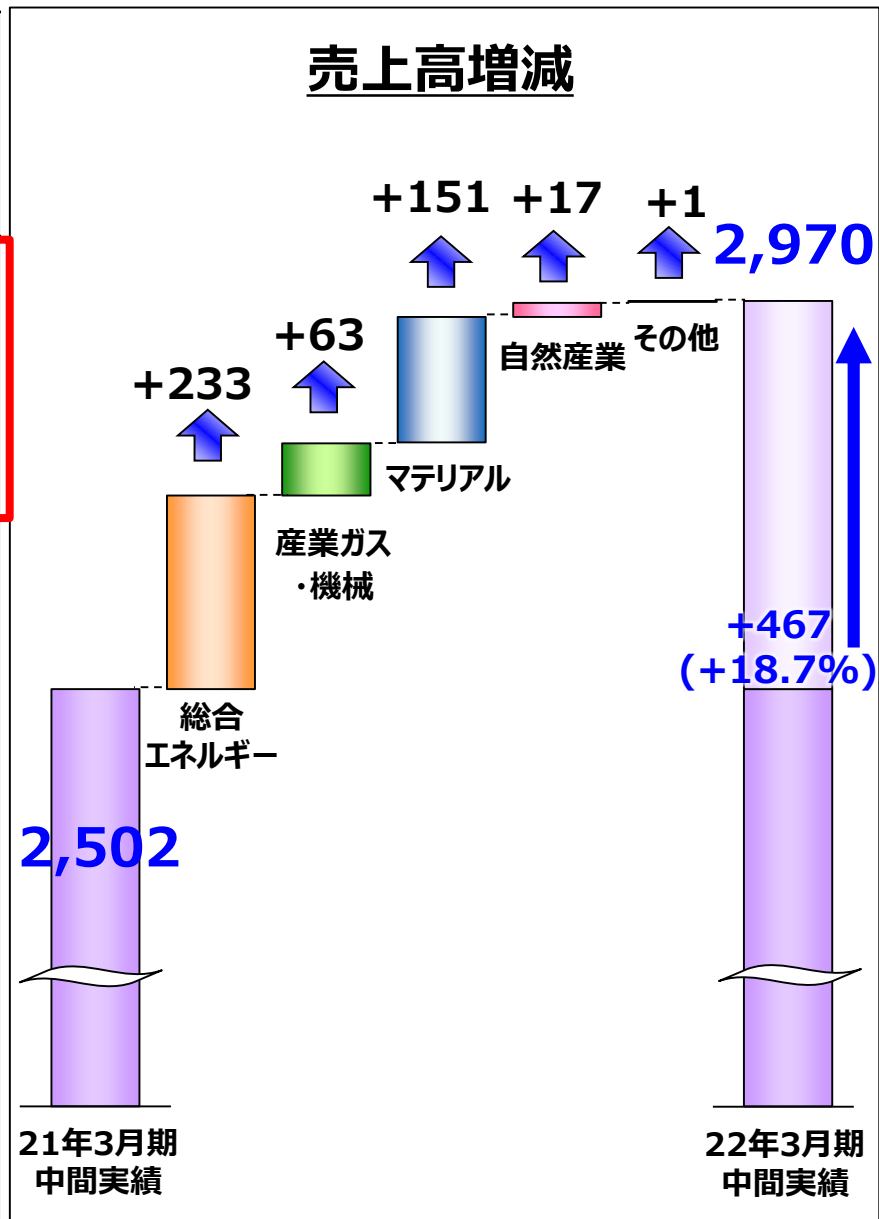
岩谷産業株式会社

- 2022年3月期 中間決算概況
- 2022年3月期 通期業績予想
- 事業トピックについて

2022年3月期 中間決算概況

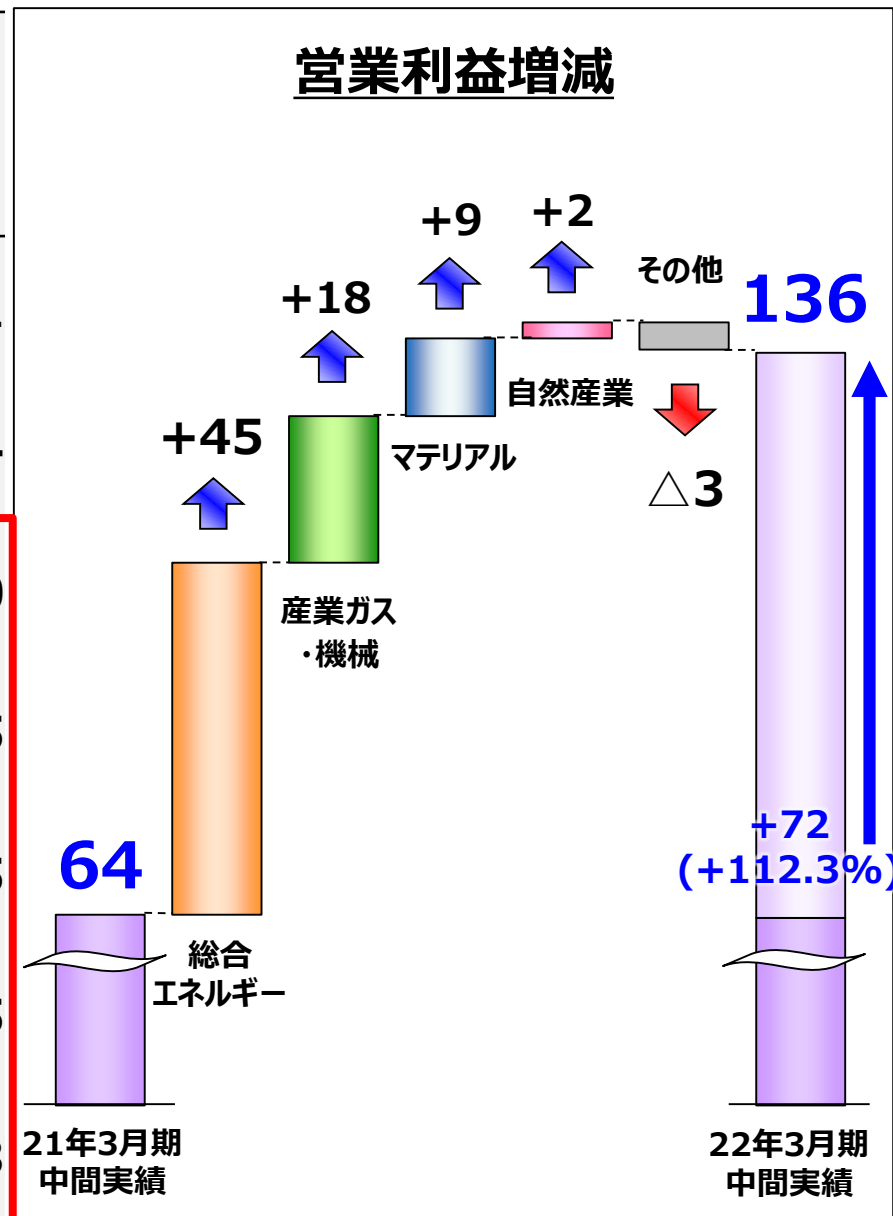
増収の要因分析

	2022年 3月期 中間実績	2021年 3月期 中間実績	前年差 (増減額)	2022年 3月期 通期予想
売上高	2,970	2,502	+467	6,261
売上総利益	870	771	+99	-
営業利益	136	64	+72	320
営業外損益	28	23	+4	45
経常利益	165	88	+77	365
市況要因を除く 経常利益	143	112	+30	365
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	102	56	+46	243



増益の要因分析

	2022年 3月期 中間実績	2021年 3月期 中間実績	前年差 (増減額)	2022年 3月期 通期予想
売上高	2,970	2,502	+467	6,261
売上総利益	870	771	+99	-
営業利益	136	64	+72	320
営業外損益	28	23	+4	45
経常利益	165	88	+77	365
市況要因を除く 経常利益	143	112	+30	365
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	102	56	+46	243



前提

① 卸売価格は L P ガス輸入価格に連動

② 輸入～販売の期間は約3ヶ月

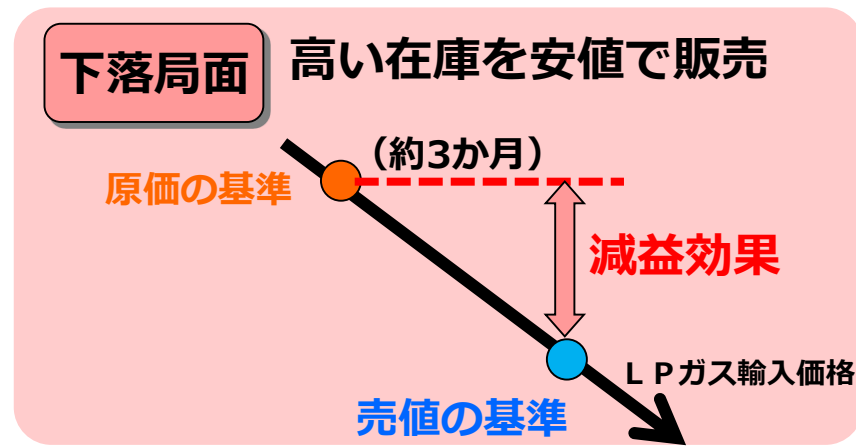
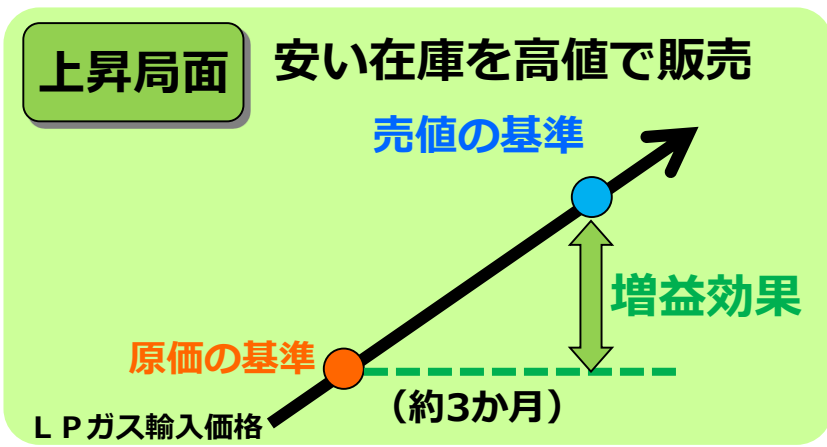
卸売価格 ∝ L P ガス輸入価格
(中東玉 (C P) と米国玉 (M B) で構成)



L P ガス輸入価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

(L P ガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ) ※

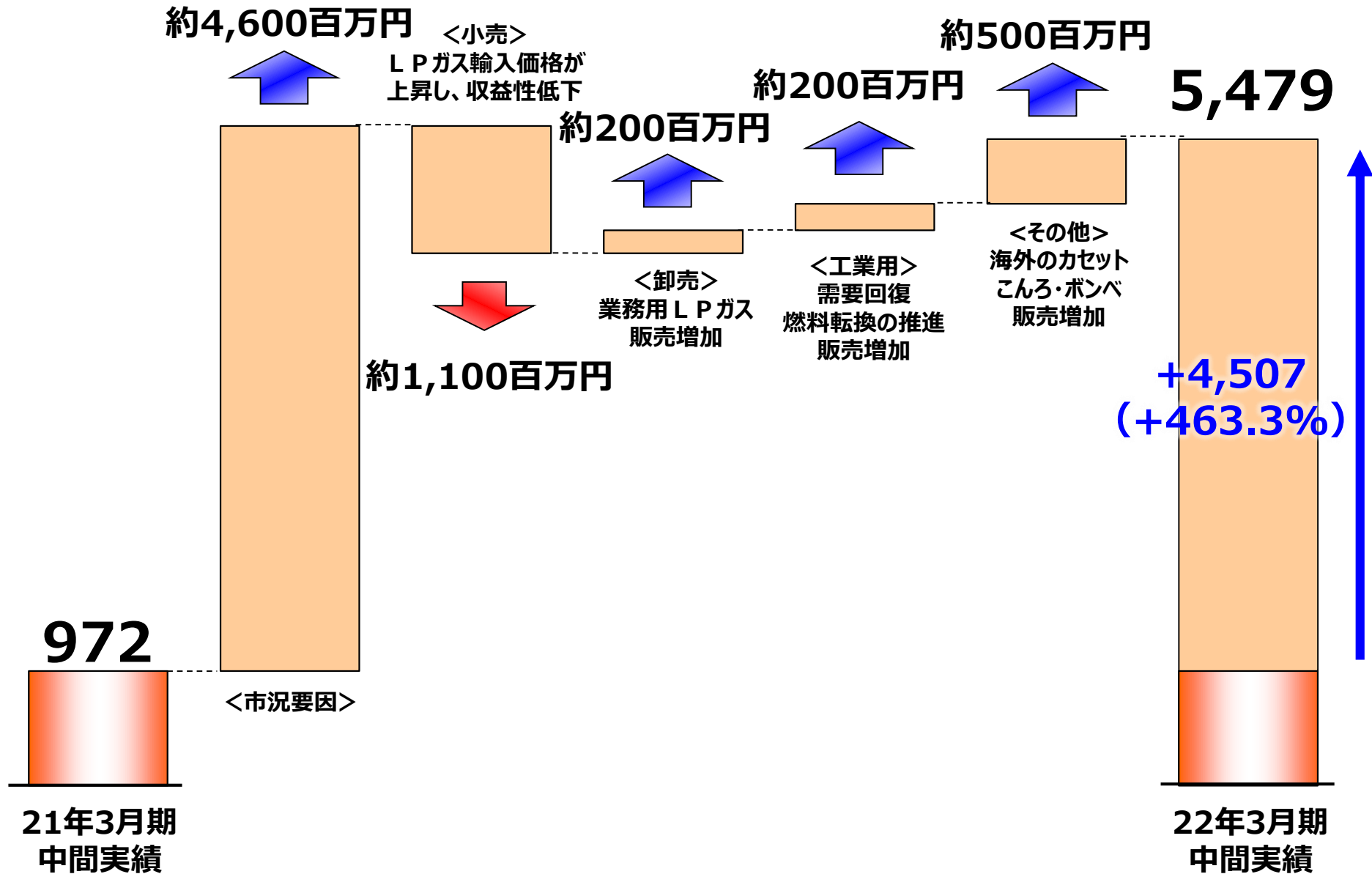


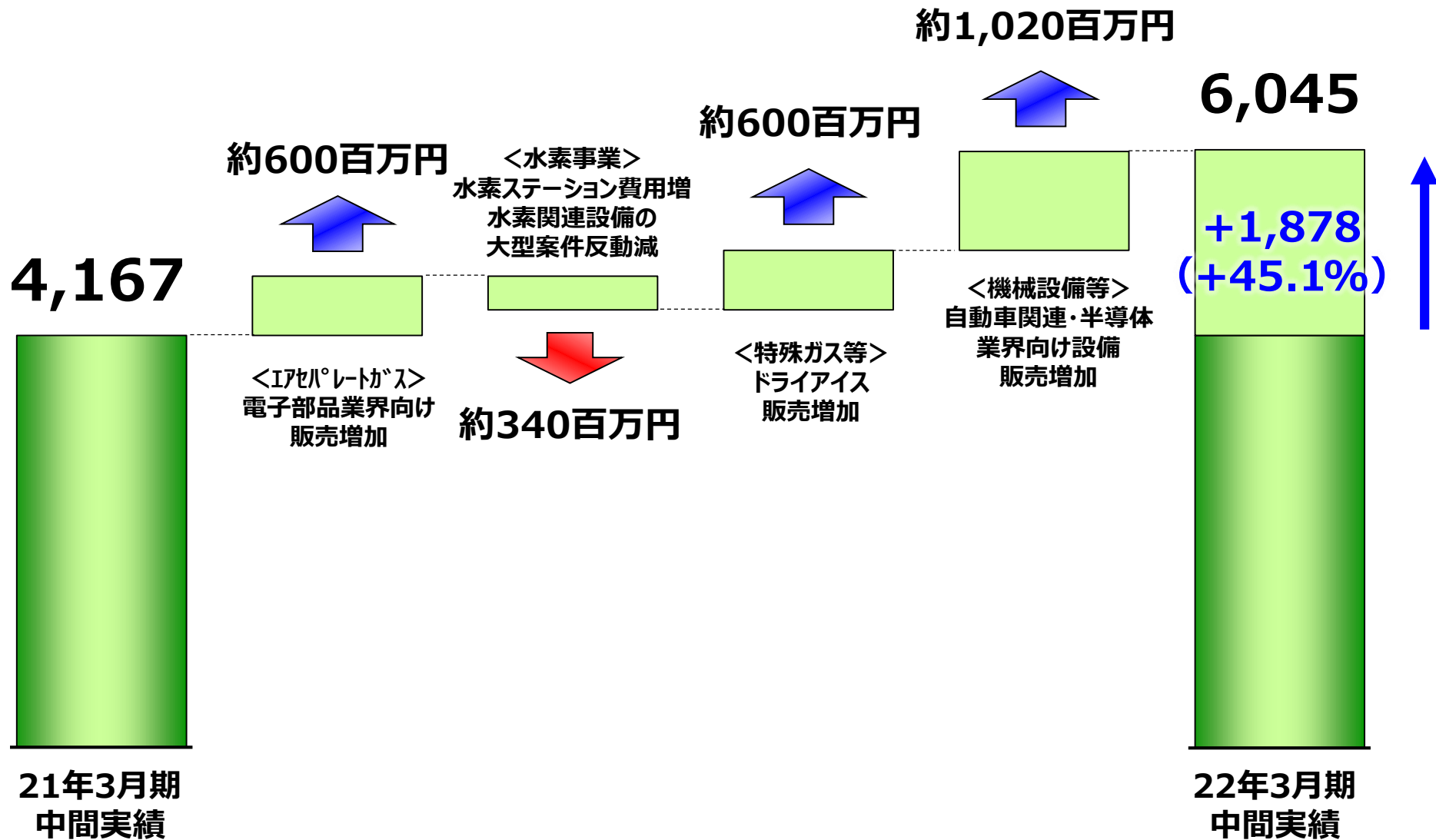
※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

Iwatani

(単位：百万円)

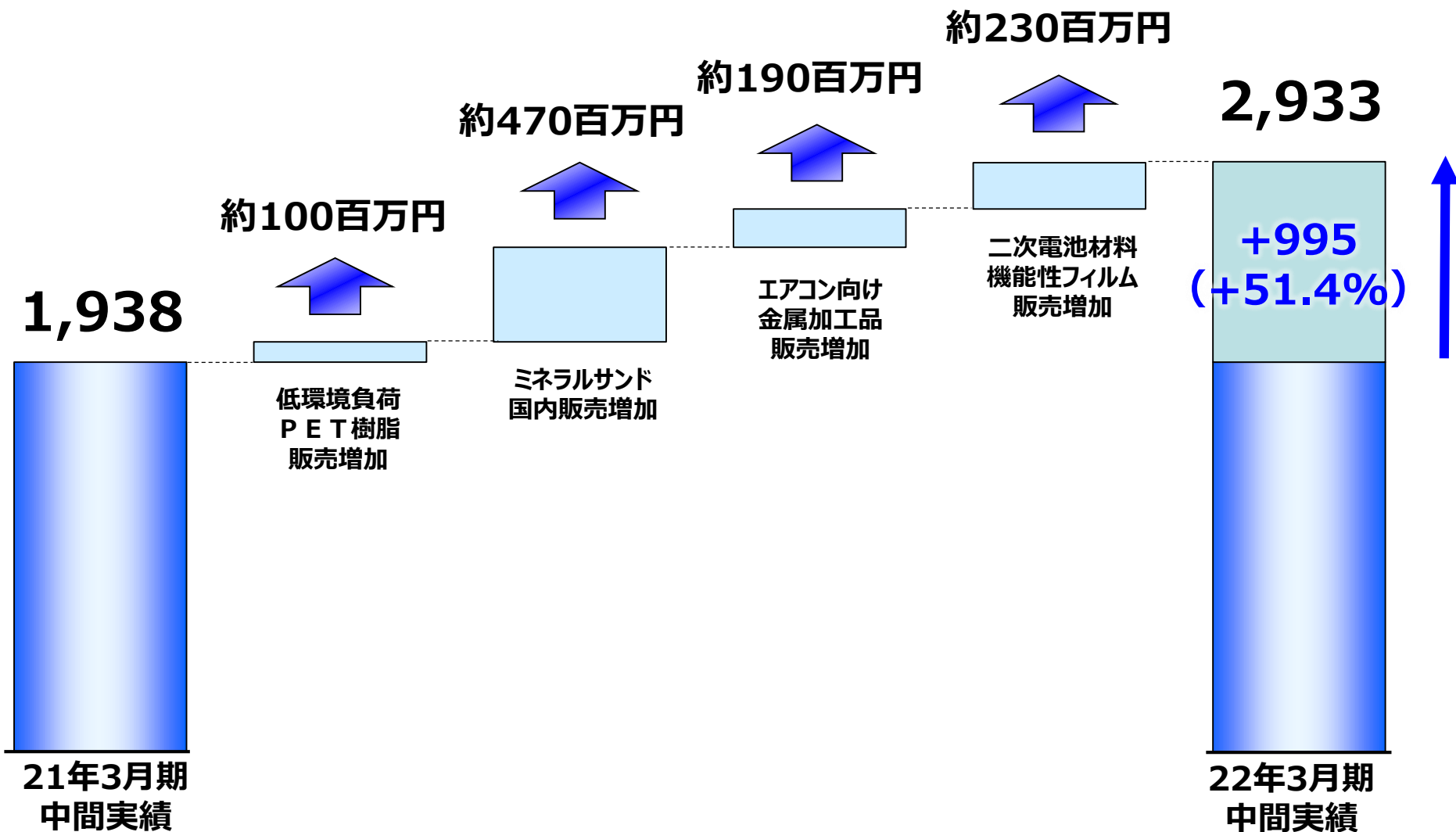




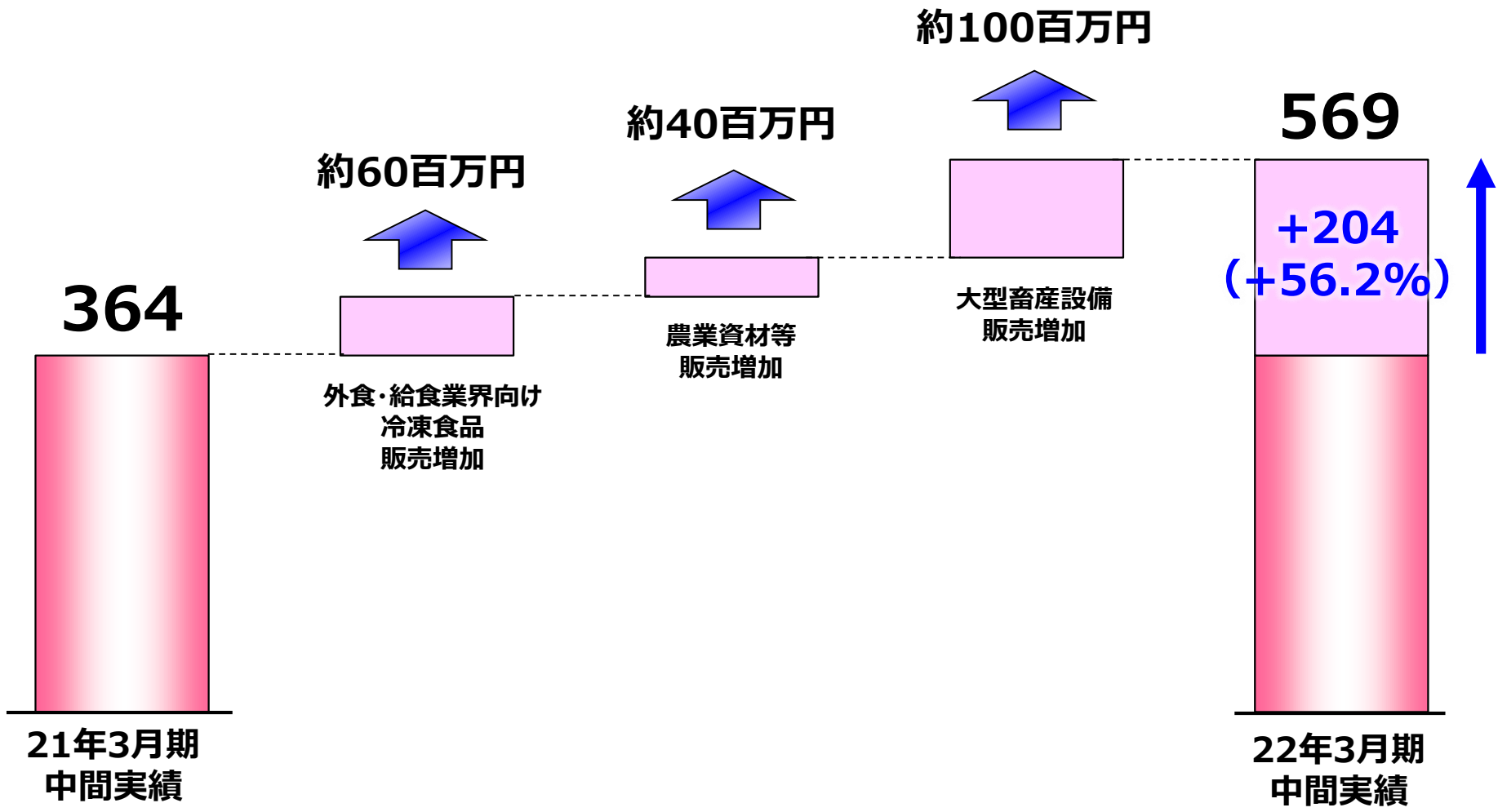
マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani

(単位：百万円)



自然産業事業 営業利益増減分析



貸借対照表 (連結)

	2021年 9月末	2021年 3月末	前年差 (増減額)	主な増減理由
流動資産	2,112	2,221	△108	現預金の減少
有形固定資産	1,797	1,780	+17	水素ステーションやLPガス事業への投資
無形固定資産	168	174	△6	
投資その他の資産	997	943	+53	保有株式の時価評価による投資有価証券の増加等
固定資産	2,963	2,899	+64	
総資産	5,076	5,120	△43	
流動負債	1,616	1,709	△93	支払手形および買掛金の減少
固定負債	837	874	△36	長期借入金の減少
負債	2,454	2,584	△130	有利子負債 1,022億円 有利子負債依存度 20.1%
自己資本	2,525	2,441	+83	(自己資本比率 49.7%) (ネットD/Eレシオ 0.29倍)
非支配株主持分	97	94	+2	
純資産	2,622	2,535	+86	
負債・純資産	5,076	5,120	△43	

キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2022年3月期 中間実績	2021年3月期 中間実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	24	106	△82
投資キャッシュ・フロー	△157	△133	△24
フリー・キャッシュ・フロー	△133	△27	△106
財務キャッシュ・フロー	10	152	△141
換算差額等 ※1	9	△2	+11
現預金等の増減額 ※2	△113	122	△236
現預金等の期首残高	384	251	+133
現預金等の期末残高	270	374	△103

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております

2022年3月期 通期業績予想

2022年3月期 通期業績予想

Iwatani

(単位：億円)

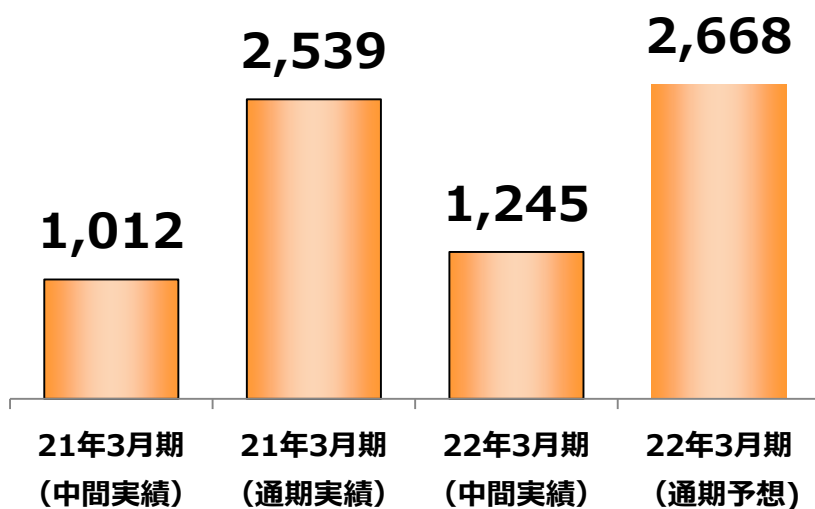
	2022年3月期 業績予想	2021年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	6,261	5,626	+634	+11.3%
総合エネルギー事業	2,668	2,539	+128	+5.1%
産業ガス・機械事業	1,923	1,721	+201	+11.7%
マテリアル事業	1,342	1,118	+223	+20.0%
自然産業事業	284	203	+80	+39.8%
その他	44	43	+0	+1.3%
営業利益	320	299	+20	+6.7%
総合エネルギー事業	170	173	△3	△1.9%
産業ガス・機械事業	110	99	+10	+10.5%
マテリアル事業	53	47	+5	+10.7%
自然産業事業	12	8	+3	+44.3%
その他・調整額	△ 25	△ 29	+4	-
経常利益	365	344	+20	+6.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	243	232	+10	+4.7%

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用。2021年3月期売上高は「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

総合エネルギー事業の見通し

売上高

(億円)

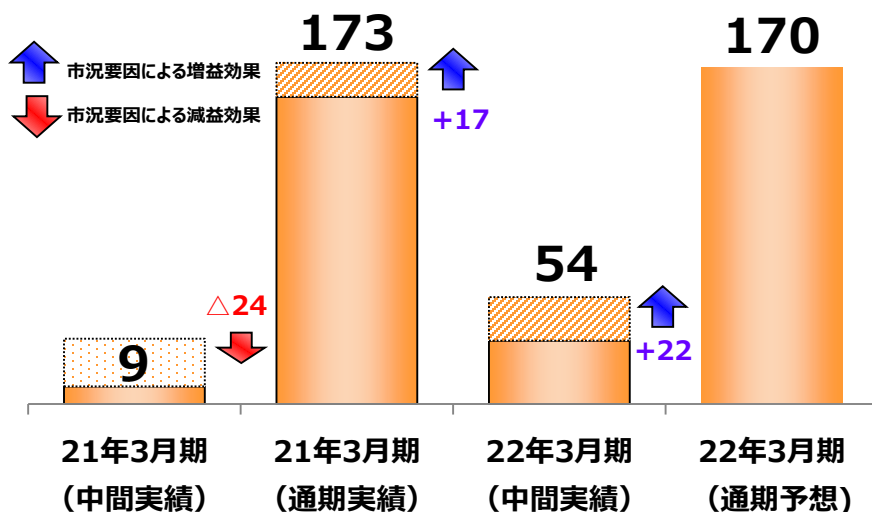


通期業績予想の達成に向けて

- ・M & AによるLPガス直売顧客数の拡大
- ・エネルギー関連機器、B to C商品の拡販
- ・国内外でのカートリッジガス事業の拡大
 - 国内のアウトドア向け商品の拡販
 - 東南アジアや米国への海外展開の強化

営業利益

(億円)



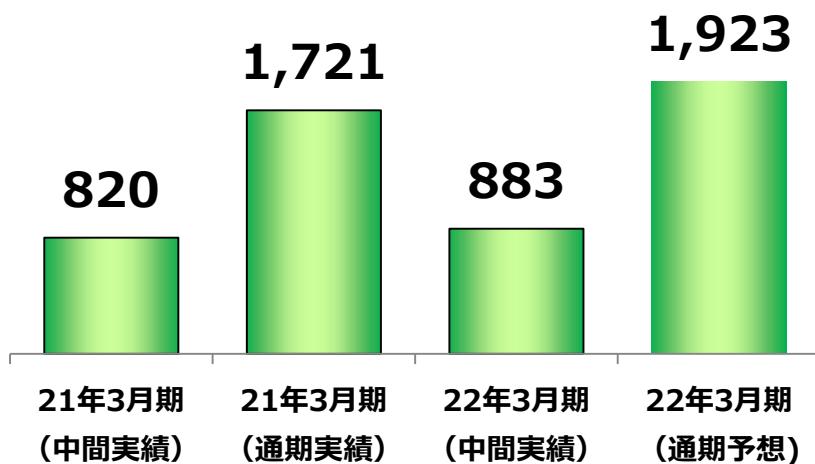
業績が変動するリスク要因

- ◇ LPガス輸入価格、為替の動向
- ◇ 気温変動による販売数量への影響

産業ガス・機械事業の見通し

売上高

(億円)

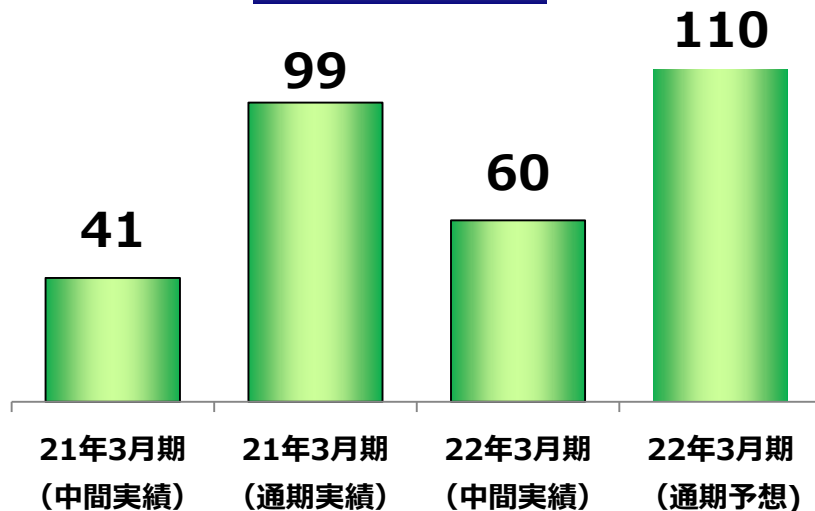


通期業績予想の達成に向けて

- ・成長分野へのエアガスの拡販
- ・液化水素の新規ユーザー獲得
- ・ヘリウムの安定供給
- ・自動車、半導体業界の設備需要の取り込み

営業利益

(億円)



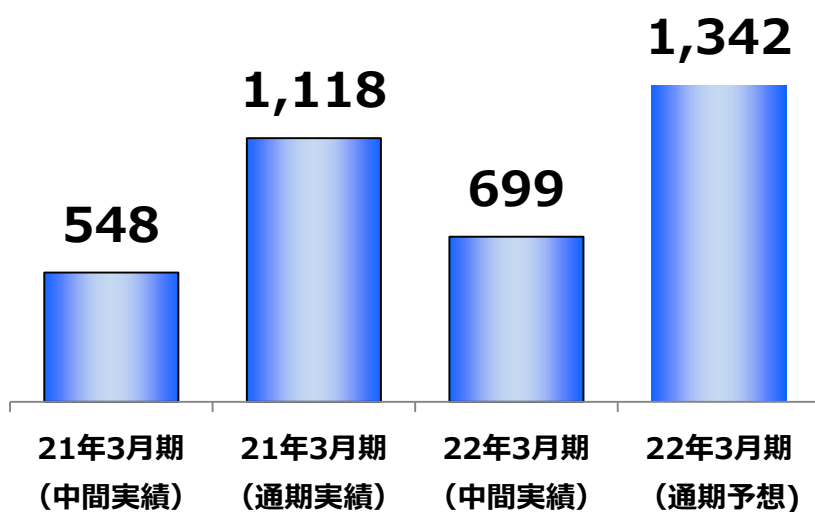
業績が変動するリスク要因

- ◇ 電力料金、LNG価格上昇による製造コストへの影響
- ◇ 為替変動

マテリアル事業の見通し

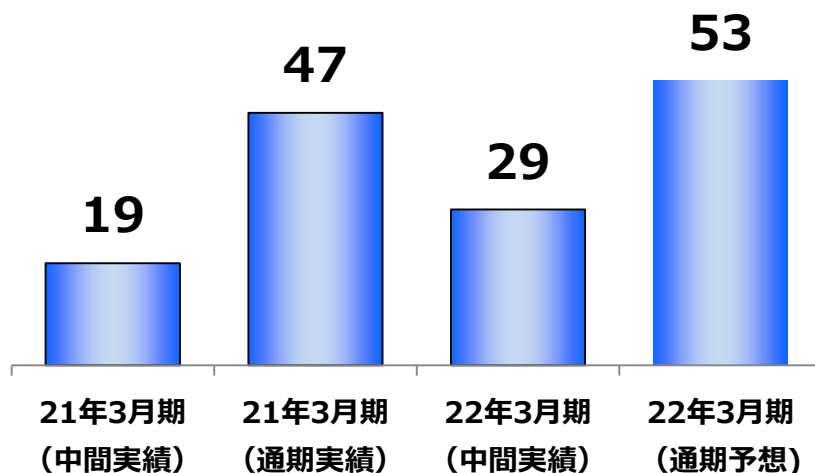
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



通期業績予想の達成に向けて

- ・環境商品（低環境負荷PET樹脂・バイオマス燃料・二次電池材料）の拡販
- ・既存事業の強化
 - チタン・ジルコンの拡販
 - 海外での金属加工事業の拡大

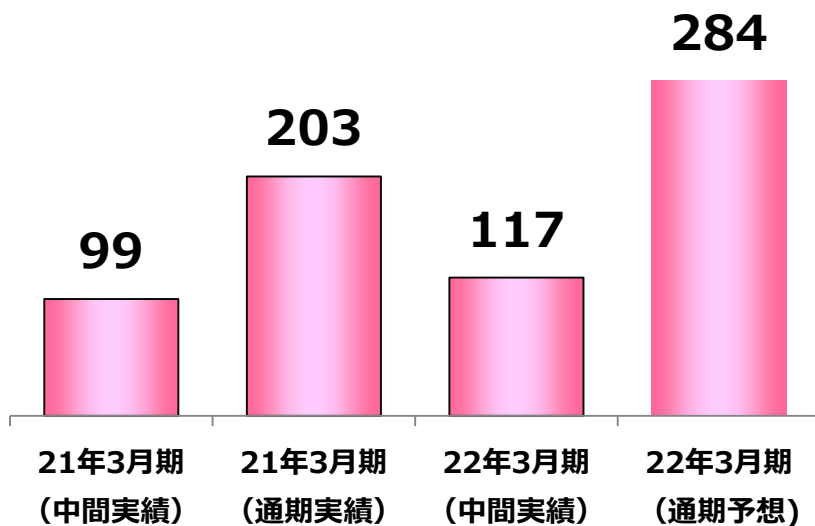
業績が変動するリスク要因

- ◇ 資源市況の変動
- ◇ 為替変動

自然産業事業の見通し

売上高

(億円)

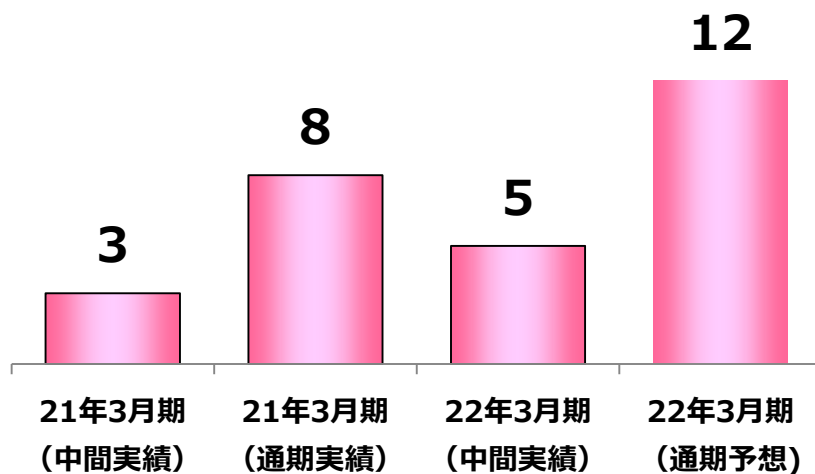


通期業績予想の達成に向けて

- ・一般消費者向け冷凍食品の開発・拡販
- ・種豚の拡販
- ・農業・畜産設備の拡販

営業利益

(億円)



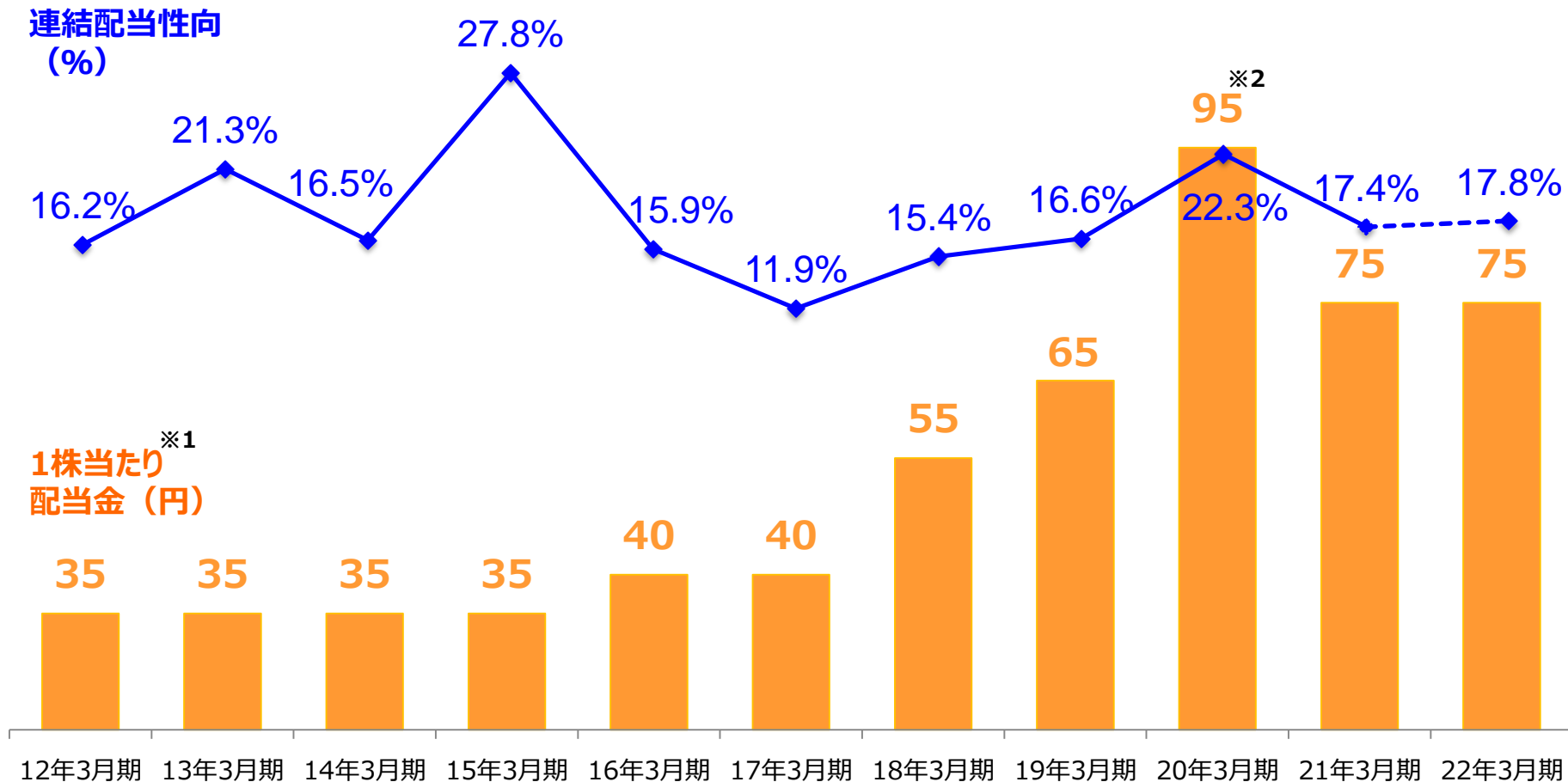
業績が変動するリスク要因

- ◇ 為替変動
- ◇ 原材料価格変動
- ◇ 天候不順

株主還元について（連結）

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



※1 2012年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額

※2 うち記念配当20円含む

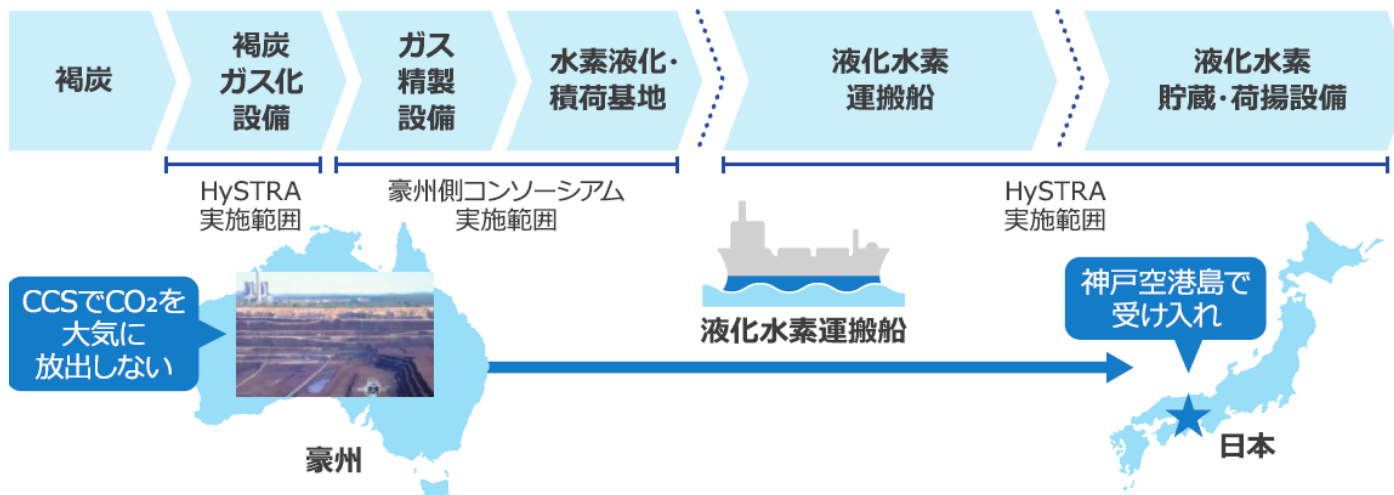
(予定)

事業トピックについて

CO2フリー水素サプライチェーン構築への取り組み

豪州での複数プロジェクトを推進

HySTRA事業



豪州褐炭由来水素サプライチェーン実証を開始し2030年の商用化を目指す。

グリーン液化水素製造プロジェクト

【水素製造拠点 アルドガ地区の土地イメージ】

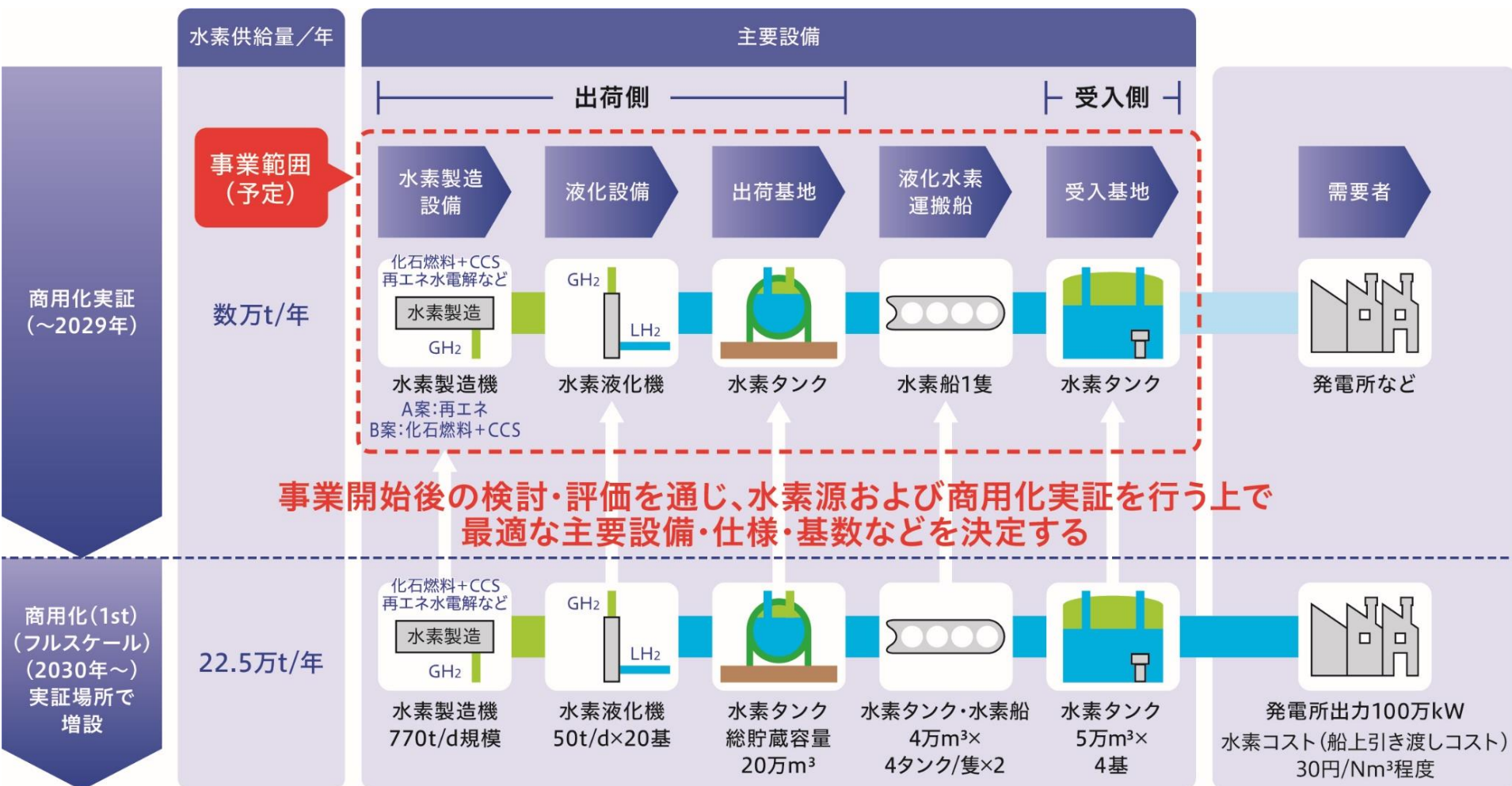


豪州の電力会社Stanwell社などと再生可能エネルギー由来の水素を大規模に製造・液化して日本へ輸出するプロジェクトについて事業調査を共同で進める。



CO2フリー水素サプライチェーン構築への取り組み

「液化水素サプライチェーンの商用化実証」が「グリーンイノベーション基金事業」に採択



出典：日本水素エネルギー(株)など

グリーンボンドの発行について

水素ステーション建設資金を目的とした グリーンボンド※の発行

※調達資金の用途を環境改善効果のある事業に限定して発行する債券



【イワタニ水素ステーション東京羽村 完成予想図】

グリーンL Pガスの取り組みについて

「日本グリーンL Pガス推進協議会」を設立

<研究開発概要>

輸入元売り5社共同によるL Pガスグリーン化事業を推進

プロジェクト1：炭酸ガスと水素からL Pガスを100%近い収率で直接合成する新技術開発

プロジェクト2：バイオガス等のメタノール・DME 経由 L Pガス間接合成法

プロジェクト1

触媒基礎研究、
パイロットプラント
実証研究

プロジェクト2

触媒基礎研究

社会実装に向けた
スケールアップ実証研究

プラント規模：100kg/日

社会実装の開始、
商用化プラント建設

- ・2030年～
プラント規模：10～100トン/日
- ・～2050年
L Pガス総需要の全量を
グリーンL Pガスに代替を目指す

第一段階：2021～2024年

第二段階：2025～2030年

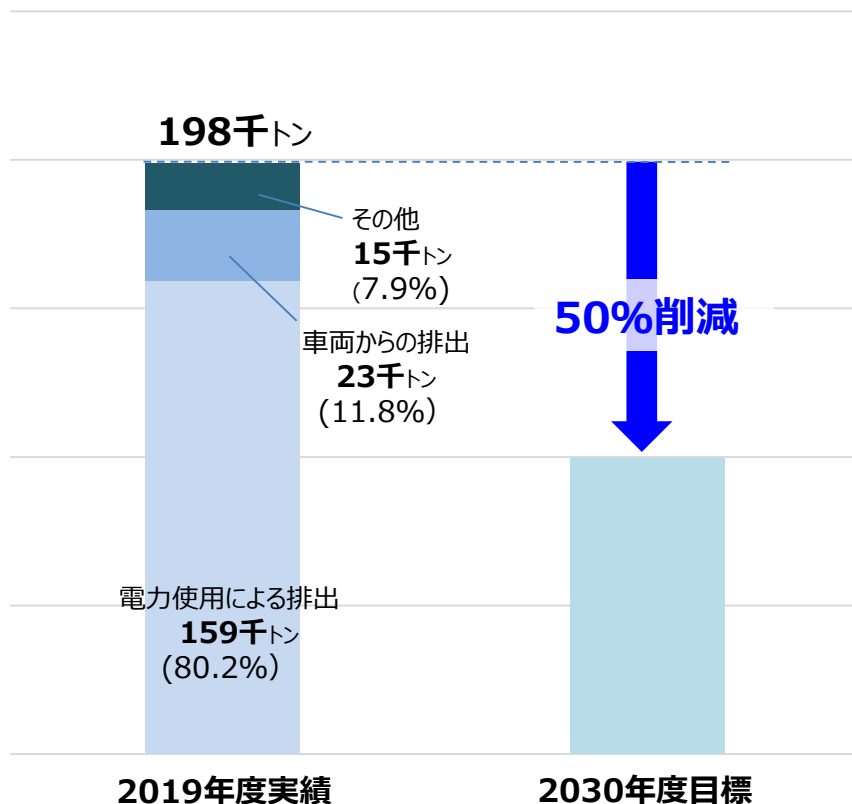
第三段階：2030～2050年

出典：日本LPガス協会のプレスリリースをもとに資料作成

CO2排出量削減に向けた取り組みについて

産業ガス工場や研究施設を中心に脱炭素化を推進

当社グループ(国内)による CO2排出量 削減目標



主な削減の取り組み

○ハイドロエッジ

- ・LNGの冷熱利用による省電力化の推進



○中央研究所および岩谷水素技術研究所

- ・純水素型燃料電池の設置



○イワタニグループの工場および各事業所

- ・太陽光パネル設置
- ・照明のLED化等



イワタニゲートウェイの取り組みについて

地域社会課題を解決するサービスをスタート

<イワタニゲートウェイ構想>



安心①
ガスの見守り

24時間365日ガスの安全を見守ります。ガス漏れが起こった場合でも、遠隔で遮断するので外出時にも安心です。



安心②
暮らし相談

ボタンを押すだけでお客さまへ電話連絡いたします。ガス以外のお困りごとでもお気軽にご相談ください。



安心③
温度・湿度のお知らせ

温度や湿度が上がり過ぎると、音声でお知らせするので、熱中症対策にも役立ちます。



安心④
ガス・電気の見える化

ガスや電気*の使用量、料金をWeb照会サービスで確認することができます。

※「イワタニでんき」加入の場合

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL:06-7637-3470

FAX:06-7637-3333

Webサイト:<http://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。